

第3章

【学びを生かそう」とする姿が生まれる単元デザインの工夫】実践例

「自分の意見をチャットに投稿する」という単元ゴールへ向けて、自分たちの学んだことをまとめ、それらを活用していく取組
～菊池市立七城小学校（6年国語科）～

インターネットに投稿してあるコメント（教材）を基に読み取ったこと（説得の工夫や議論への参加の仕方）を「ガイドライン」にまとめ、それを活用し、学級内のチャットで投稿することで、単元を通してつながりのある学習ができるようにしている。



学級内でのチャットを使った議論に向けて学習を進めていきます。

児童は、教材を通して学んだ説得の工夫や議論への参加の仕方などを「投稿ガイドライン」としてまとめます。そのガイドラインを活用して実際に投稿体験をするという学習過程を児童が意識して取り組むことで、見通しをもち主体的な学びへとつながりました。

学習の終末には、子供向けの新聞記事「エイプリルフルについて考えよう」に対して相手や目的を意識して自分の考えを投稿し合うことで、学びを生かすことができました。

第3章

【学びを生かそう」とする姿が生まれる単元デザインの工夫】実践例

国語の授業における「おくのほそ道」（古典）を通して、当時の状況や作者の思いを捉え、古典の世界に親しむ取組
～合志市立合志中学校（3年国語科）～

江戸時代に生きた松尾芭蕉の旅への思いや俳句について、不易と流行等の視点を通して古典の世界に親しむことで、自分の視野を広げ自己を向上させようとする深い学びにつながる単元デザインの構想を行っている。



導入場面での動画視聴

古典の合わせ読み

アンケート結果の考察

単元導入の場面では、生徒役に扮した教師2名が「おくのほそ道」についての概要や、知りたいことなどを対話している動画資料を提示しました。

視聴後は、1人1台のタブレットを用い、「xSync Classroom」のアンケート機能を使って、三つの案から一つを選びました。（①芭蕉が見た景色はどんな景色だろう？ ②俳句に込めた芭蕉の思いは何だろう？ ③「不易と流行」それは、何だろう？）

作者と自分のものの見方・考え方等における相違点に気付くことで、視野が広がり自己を向上させていく学びを単元のゴールの姿として設定しました。

また、単元のゴールの姿を実現するために必要な学習活動（音読や先人との対話を目指した文脈の読み取り等）を設定し、生徒たちと学習過程を構想・共有しながら学習を進めました。

歴史（明治維新）の授業において、子供の「学びを活かそう」とする姿が生まれる学習過程の工夫

～天草市立本渡中学校（2年社会科）～

「学びを生かそう」とする姿が生まれるように、学習過程を「明治と江戸の大まかな比較（課題把握）→明治政府の国づくり等（課題追及・課題解決）→明治政府の国づくりに対する評価（課題解決）」と構想し、授業を行っている。

単元を通じた学習課題		
明治政府の国づくりを支持するか？ —政治への意見形成力を鍛えよう—		
指導計画と評価計画(11時間扱い 本時10/11)		
過程	時間	学習活動
課題把握	単元の導入(大単元の中における本単元の位置づけの確認・課題の把握)	
	1	○明治時代と江戸時代を大まかに比較する活動を通して、明治時代が現代に近づいていることを理解し、単元を通じた学習課題を設定する。 ○江戸時代が終わった国内・国外の状況を確認し、明治時代では政治家と国民はどのような政治を求めたのかを予想する。
課題追及・課題解決	明治維新の政治	
	8	○富国強兵・殖産興業・文明開化など、明治政府の国づくりの内容について理解する。 ○明治維新の諸改革の結果、我が国の国際的地位が向上したことをまとめる。 ○明治政府の国づくりに対する国民の反応についてまとめる。
課題解決	単元のまとめ(単元の課題についてのまとめ・次単元へのつなぎ)	
	1 本時	○明治政府の国づくりについて、政府・国民の立場から考え、総合的に判断する。(本時)
	1	○江戸・現代と比較した明治時代の特色についてまとめる。 ○現代について考える上で大切なことをまとめる。

課題把握の過程で、江戸時代と明治時代の政治や経済、外交などを大まかに比較し、単元を通じた学習課題「明治政府の国づくりを支持するか？～政治への意見形成力を鍛えよう～」を設定します。そして、その学習課題を解決するために、課題追究・課題解決の過程で、明治政府の国づくりの内容を理解していきます。

最後の課題解決の過程では、それまでの学びを生かして、明治政府の国づくりに対する評価を行います。このような学習過程を構想することで、子供が学びを生かして意見形成を行うという主体的な学びにつなげています。